シルク博物館令和3年度年報

シルク博物館

令和4年6月

シルク博物館令和3年度年報

$\overline{}$	· \/F
\vdash	\ '// \
\vdash	I -√' /\`
-	1/

1	ごま	あいさつ	1
2	建物	勿の概要	2
3	令和	n3年度のおもな出来事	2
4	事業	Ę	3
(1)	厘	· 表示事業	3
	ア	常設展示	
	1	春の企画展 シルク博物館所蔵品展	
		「描かれた養蚕 -養蚕錦絵の世界-」	
	ウ	秋の特別展 「第 26 回全国染織作品展」	
(2)	孝	数育普及事業『チャレンジ!かいこプログラム』	5
	ア	第1弾 蚕種配布	
	1	第2弾かいこ教室	
	ウ	第3弾 団体利用・ワークショップ	
	工	第4弾 たのしいかいこの発表会	
(3)	身	実演・講習会	9
	ア	くみひも作り体験	
	1	手作り真綿の実演と講習会	
	ウ	スカーフ染め体験	
(4)	討	觜座・講演会	10
	ア	外部講師による講座「蚕とその仲間の生態・最新の研究」	
	イ	常設展示ギャラリートーク	
(5)	ţ	事物館実習生の受入れ	10
(6)	連	車携事業 シルキーウィンターフェスティバル	10
(7)	賞	資料活用事業	11
	ア	購入	
	イ	寄贈	
	ウ	貸出	
	エ	特別利用	
	オ	収蔵品の修復	

(8) 刊行物	13
(9) 執筆	13
(10) レファレンス	13
(11) 後援・協力	13
アー後援等	
イ 他機関への協力	
(12) 職員の派遣	14
(13) 広 報	14
アー春の企画展	
イの特別展	
ウ チャレンジ!かいこプログラム	
工。講座	
オ ワークショップ、実演	
カー常設展、基本情報	
キ その他	
(14) その他	16
アーオリジナル商品の開発	
5 資料	17
(1) 組織と職員	17
(2) 事業費	17
(3) 所蔵資料	17
(4) 入館者状況	18
(5) 過去の特別展・企画展一覧	19

1 ごあいさつ

シルク博物館は昭和34 (1959) 年3月12日、横浜開港100年記念事業として建設されたシルクセンタービル内に開設され、これまで絹に関する知識の普及・伝承、絹製品の需要促進、国際貿易及び観光の振興等に寄与するとともに、魅力ある博物館として特別展・企画展等の充実や、蚕やシルクの理解促進のための教育普及事業等に取組んでまいりました。

令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底することにより、神奈川県の緊急事態宣言発出時においても休館することなく、事業の実施に努めました。また、令和2年度に中止となった展覧会は1年延期し、春の企画展「描かれた養蚕ー蚕織錦絵の世界-」、秋の特別展「第26回全国染織作品展」を開催しました。

しかしながら、コロナ禍はまだ先の見えない状況が続いており、一部のワークショップについては中止としたものもありました。入館者についても、コロナ前の水準には戻っておらず、特に外国人旅行者などはまだしばらく期待できない状況です。

こうした厳しい状況にはありますが、小中学生や県内、近隣県の方々を中心に、これまで以上に、より多くの方にシルク博物館にお越しいただけるよう努めてまいりますので、今後とも、シルク博物館の活動にご理解とご協力をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

令和4年6月

シルク博物館

2 建物の概要

【博物館】

展示面積(2階) 798.00 ㎡ (241.39 坪) ※受付前、ミュージアムショップを含む

(3 階) 558.03 m² (168.80 坪)

イベントホール 212.72 m² (64.35 坪)

第一収蔵庫 21.76 ㎡ (6.58 坪)

第二収蔵庫 46.24 ㎡ (13.99 坪)

映写室 24.48 m² (7.41 坪)

準備室 62.62 ㎡ (18.94 坪)

図書室 67.80 ㎡ (20.51 坪)

改装 昭和44(1969)年(開館10周年記念)

平成 11 (1999) 年 (開館 40 周年記念)

平成 24 (2012) 年 (開館 53 周年記念)

【シルクセンター】

所在地 神奈川県横浜市中区山下町1番地

構造 地下 2 階、地上 11 階、塔屋 2 階

建築面積 3,853.53 ㎡(1167.7 坪)

延床面積 25,332.02 ㎡(7,676.3 坪)

設計監理 坂倉準三建築研究所

施工 鹿島建設株式会社

経過 起工 昭和32 (1957) 年11月

竣工 昭和 33 (1958) 年 11 月 (一部)、昭和 34 (1959) 年 3 月 12 日 (全館竣工)

開館 昭和34(1959)年3月12日

3 令和3年度のおもな出来事

春の企画展「描かれた養蚕」の開催

秋の特別展「第26回全国染織作品展」の開催

4 事業

(1) 展示事業

ア 常設展示

年間を通して蚕の飼育展示、繭やシルクの科学、絹製品などができる過程、衣食住にかかわる絹製品、蚕糸業の歴史、日本の復元時代風俗衣装人形、重要無形文化財保持者をはじめとした現代作家の着物、掛袱紗、アジアを中心とした民族衣装、蚕織錦絵など、シルクに関するさまざまな展示を、展示替えを行いながら展開した。また、時代復元衣装人形4躰(平安時代男・女性、桃山時代女性、江戸時代女性)の着装を実施し展示替えした。

イ 春の企画展

シルク博物館収蔵品展「描かれた養蚕 ―蚕織錦絵の世界―」

蚕織錦絵とは、養蚕から製糸・機織りを主題とした多色刷りの浮世絵で、江戸時代後期から明治 20 年代にかけて多種多様な作品が制作された。本展では、シルク博物館所蔵の蚕織錦絵およそ 200 点のなかから選りすぐり、バラエティに富む「蚕織錦絵」の世界を展示した。美術品としての錦絵鑑賞を楽しんでいただくとともに、錦絵が描かれた当時の風俗や世相、時代背景などが感じ取れる展示とした。

【会期】令和3年4月24日(土)~6月6日(日) (開催期間38日間)

【主催】シルク博物館

【後援】神奈川県/神奈川新聞社/tvk/NHK 横浜放送局/横浜繊維振興会

【展示】広重「かいこやしないの図」、国芳「蚕家織子之図」ほか 約50点 ※会期中一部展示替を実施

【関連企画】

学芸員によるギャラリートーク 5月1日(土)、23日(日)、6月6日(日)

※コロナウイルス感染拡大防止のためツアー形式を中止し、講座形式にて実施した。

【図録】『描かれた養蚕—蚕織錦絵の世界—』A4判 40頁

【写真】



A4 チラシ



国芳「蚕家織子之図」(10枚揃のうち)

【入館者数】 (単位:人)

		正規料金		正規料金割引料金			料金 割引料金		fore year 1 x 0.7	31
区分	一般	シニア 大学生	高校生以下	一般	シニア 大学生	高校生以下	無料※	計		
日本人	323	66	111	120	40	198	858	1,716		
外国人	13	1	5	2	0	0	0	21		
計	336	67	116	122	40	198	858	1,737		

※「無料」:招待券、優待券など無料入館者

ウ 秋の特別展「第26回全国染織作品展」

絹は独特の光沢や風合い、染色性の良さなどを有し、古くから優れた高級衣料素材として用いられてきた。そして、古代から受け継がれてきた高度な染織技術は、日本の大切な伝統文化となっている。

本展では、絹を用いた染織作品を広く全国から募集し、厳正な審査のうえ、入選作品を一堂に展観した。本展を通じて、次代をになう新進作家の育成及び染織技術の向上と服飾文化の発展を図るとともに、絹の需要増進に努めた。

【会期】令和3年10月23日(土)~11月28日(日) (開催期間32日間)

【主催】シルク博物館

【協賛·後援】一般財団法人繊貿会館/一般財団法人大日本蚕糸会/一般財団法人日本真 綿協会

【後援】神奈川県/横浜市文化観光局/神奈川新聞社/tvk/NHK 横浜放送局/東京織物 卸商業組合/横浜繊維振興会

【展示】全国公募による入選作品 73 点 (入賞作品 12 点含む)

【入賞作品】 ※ 買上賞

賞	種 別	作 品 名	作者	都道府県
シルク博物館大賞※	訪問着	飛翔	清水 九一	神奈川県
シルク博物館賞※	訪問着	プリズム	藤原 萌	神奈川県
佳賞	壁かけ	PLANET 1 No.8	曾 斯琴	東京都
奨励賞	着物	未来への扉	北岡 悦子	大阪府
奨励賞	着尺	変わり縞二尺引彫り小紋	廣瀬 雄一	東京都
奨励賞	帯	光風	田尻 麗	大阪府
奨励賞	屏風	ラーレの始まり	野口 結貴	大阪府
奨励賞	タペスト リー	あの丘の向うに	佐藤 静子	千葉県
技術賞	帯	パズル・ゲーム	河野 香奈恵	東京都
意匠賞	壁かけ	存在の情愫	臧 傑	東京都
大日本蚕糸会会頭賞	着尺	若夏の光	段上 育子	沖縄県
日本真綿協会賞	帯	光明	森 昭	茨城県

【図録】『第 26 回全国染織作品展』 A4 判 32 頁

【写真】









【入館者数】 (単位:人)

	正規料金		正規料金割引料金						fort viol > 0.0	-1
区分	一般	シニア 大学生	高校生以下	一般	シニア 大学生	高校生以下	無料※	計		
日本人	475	308	234	233	176	1,302	1,141	3,869		
外国人	11	0	2	2	0	1	0	16		
計	486	308	236	235	176	1,303	1,141	3,885		

※「無料」:招待券、優待券など無料入館者

(2) 教育普及事業 『チャレンジ!かいこプログラム』

昨年度までに引き続き、蚕種配布・かいこ教室・たのしいかいこの発表会等の事業や通 年開催のワークショップ・学校利用等、当館の子ども向け教育普及事業を「チャレンジ! かいこプログラム」と総称して推進した。

ア 第1弾 蚕種配布

蚕の飼育を通してシルクに興味を持っていただくことを目的とし、蚕種の有償配布を 実施した。

a 学校向け蚕種配布

横浜市内を含めた神奈川県内全域の小学校等を対象として蚕種ならびに人工飼料の有 償配布を実施した。また、指導者用資料として蚕種配布者全員に「蚕の飼育マニュア ル」を配布するとともに、教員を対象とした蚕についての講座も開講した。 【配布日】令和3年5月13日(木)~5月15日(土) (3日間)

【配布件数】188件(うち横浜市立小学校87件、県内公立小学校12件、その他89件)

【配布数】蚕種:367袋(1袋約450粒入)、人工飼料:220本

【関連企画】

企画名	実施日	回数	講師	参加者※
かいこについての講座	5/13(木)~15(土)	5 回	当館職員	56 人

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1団体につき1名のみ参加可能とした

b 個人向け蚕種配布

【配布日】令和3年7月23日(金・祝)~7月25日(日) (3日間)

【配布件数】30件

【配布数】蚕種:31袋(1袋約100粒入)

イ 第2弾 かいこ教室

シルクを生み出す「かいこ」について、子どもたちにより一層興味・関心を持っていただくため、夏休み期間を利用して展示や体験を通して、蚕の成長過程・種類、繭や生糸の特徴等について楽しく学ぶかいこ教室を開催した。

【会期】令和3年7月24日(土)~8月9日(月・祝)(計15日間)

【主催】シルク博物館

【後援】神奈川県教育委員会/横浜市教育委員会/神奈川新聞社/ tvk/NHK横浜放送局/一般財団法人日本真綿協会

- 【展示】めずらしいかいこの展示および人気投票、昨年度めずらしいかいこの展示の人気 投票結果、まゆるんと学ぼう!「かいこ」ってどんな生き物?(蚕の生態に関す る解説パネル)、みんなで作ろう!桑の木パネル
- 【体験】映画「かいこ」の上映、かいこの観察会、まゆ人形作り、生糸のランプシェード 作り、まわたのスタンド作りとシルク博物館の見学ツアー

(平日)

体験内容	参加者
映画「かいこ」の上映	224 人
かいこの観察会	248 人
まゆ人形作り	250 人
生糸のランプシェード作り	250 人

%各体験は1日2回、各回定員20名で開講し1日で全ての体験に参加できるプログラムとした。

(十日・祝日)

<u> </u>	
体験内容	参加者
まわたスタンド作りとシルク博物館の見学ツアー	127 人

※ 1日3回、各回定員8名で開講した。

【写真】









【入館者数】 (単位:人)

		正規料金			割引料金		front start a dis	7.1
区分	一般	シニア 大学生	高校生以下	一般	シニア 大学生	高校生以下	無料※	計
日本人	154	16	93	346	17	373	181	1,180
外国人	1	0	0	1	0	2	0	4
計	155	16	93	347	17	375	181	1,184

※「無料」:招待券、優待券など無料入館者

ウ 第3弾 団体利用・ワークショップ

a 団体利用

団体見学のなかでも学校利用が大きな割合を占める当館では、説明や映写、ワークシートの利用を含めた見学を通して、蚕について知識を深めるとともに蚕が生み出す「シルク」の学習へとつなげられるよう、見学内容の充実を図った。また、学校やクラスによって学習したい内容が異なるため、事前に担当教員との打ち合わせを行なった。

【団体利用数】66校 うち小学校は36校(横浜市立校30校)

【下見数】37校

b 子ども向けワークショップ

蚕や繭の特徴等について、子どもたちが楽しく学べるよう、当館オリジナルキャラクター「まゆるん」の繭人形作り、真綿を利用したアヒル人形作り及び、生きている蚕を観察しながら学ぶかいことシルクの勉強会を開催した。

【開催日等】

企画名	実施日(すべて土曜日)	回数	講師	参加者
まゆ人形作り	4/10、5/8·29、6/12、9/25、10/9、 11/13、1/8	8回	当館職員	13 人
まわた人形「あひるの親子」作り	5/22、7/3、8/21、10/30、2/26	5 回	当館職員	12 人
かいことシルクの勉強会	6/5 • 26, 11/6, 3/5	4 回	当館職員	32 人

エ 第4弾 たのしいかいこの発表会

「チャレンジ!かいこプログラム」の集大成として、子どもたちが飼育した蚕の観察記録、繭や生糸を使った作品を募集し、蚕について学んだ成果等を発表する機会として開催した。なお、12月19日(日)には表彰式も実施した。

【会期】令和3年12月11日(土)~令和4年1月16日(日)(開催期間24日間)

【展示】出品作品の展示(出品団体数 26 件、制作者総数 468 名、出品数 221 点)、 みんなでつくろう!桑の木パネル

【関連企画】

企画名	実施日	回数	講師	参加者
生糸のランプシェード作り	11/27(土)、	2 回	当館職員	9人
クリスマスバージョン	12/18(土)		一口昭椒只	<i>y</i> / (
まわたの天使作り	12/11(土)	1回	当館職員	6 人
たのしいかいこの発表会 表彰式	12/19(日)	1回		144 人
まゆのオーナメント作り	12/25(土)	1回	当館職員	1 人

【写真】









【入館者数】同時開催のシルキーウィンターフェスティバルの入館者数を含む (単位:人)

- A		正規料金		割引料金			free distance	→1
区分	一般	シニア 大学生	高校生以下	一般	シニア 大学生 高校生以下	無料※	計	
日本人	203	71	10	201	21	2	1,295	1,803
外国人	3	4	0	1	0	0	2	10
計	206	75	10	202	21	2	1,297	1,813

※「無料」:期間中の小・中、招待券、優待券など無料入館者、及び無料入館日である 12 月 19 日(日)の入館者

(3) 実演・講習会

ア くみひも作り体験

鎧や刀などに使われ、現在でも帯締めや懐中時計の紐など様々な使い方がされている「くみひも」をより身近に感じていただくため、くみひもストラップ作りの体験を実施した。

【開催日等】

企画名	実施日(土曜日)	回数	講師	参加者
くみひもストラップ作り	4/24、8/28、10/23、1/29、3/26	5 回	当館職員	21 人

イ 手作り真綿の実演と講習会

真綿作りの伝統的な技術を次の世代に伝えるため、真綿に関する実演や講習会を開催した。

【後援】一般財団法人日本真綿協会

【開催日等】

企画名	実施日	回数	講師	参加者
手作り真綿の講習会	7/10(土)・11(日)	2 回	河合貞子	8人
手作り真綿の実演	4/17、7/17、9/11、11/20、 2/19 (各土曜日)	5 回	河合貞子	
真綿からの太糸作り実演	5/15、8/14、10/16、3/19(各土曜日)	4 回	河合貞子	
手紬糸作り実演	5/2、9/12、10/24、11/21、2/20(各日曜日)	5 回	当館職員	

ウ スカーフ染め体験

シルクスカーフに親しんでいただくため、シルクハンカチにビー玉やゴムを使って 簡単な絞り模様をほどこし、草木染め染料による染色体験を実施した。

【開催日等】

企画名	実施日	回数	講師	参加者
小さなシルクハンカチ染め体験 (子ども向け)	1/9(日)・10(月・祝)	2 回	佐藤のり子	9人

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 9/26(日)に開催を予定していた「スカーフ染め体験 (一般成人向け)」、および「小さなシルクハンカチ染め体験」の 9/19(日)・20(月・祝)に予定し

(4) 講座・講演会

ア 外部講師による講座「かいことその仲間の生態・最新の研究」

「シルク」の元となる繭を作る蚕について、その仲間である野蚕や蚕の医療利用等の 最新の研究まで、専門家を講師に招き全3回にわたり様々な側面から考察した。

【開催日等】

講座名	実施日	講師	参加者
「わが国養蚕の発展とそれを支えた技術	1/15(土)	新保博 氏	12 人
開発」	1/13(土)	(蚕糸科学技術研究所 所長)	12 /(
 「蚕の仲間 野蚕について」	2/12(土)	横山岳 氏	12 人
「金の仲間、野蛮について」	2/12()	(東京農工大学大学院 准教授)	12 八
「シルカの等」いかたナー	2/12(上)	伊藤克彦 氏	14 1
「シルクの新しいかたち」	$3/12(\pm)$	(東京農工大学大学院 准教授)	14 人

イ 常設展示ギャラリートーク

常設展示に沿って案内しながら、蚕や絹、染織品など多彩な話題を学芸員が来館者へわかりやすく解説した。

【開催日等】

内容	実施日	回数	講師	参加者
「蚕の生態」について	4/3(土)	1回	佐野遊海	4 人
作品鑑賞をたのしむ 一小袖・きものの見どころについて-	10/2(土)	1回	石渡桃子	4 人
「紬」について	2/5(土)	1回	石鍋由美子	5 人

(5) 博物館実習生の受入れ

学芸員養成に協力するとともに当博物館を広く周知し、絹に対する理解と関心を深めていただくため、講義と普及活動の実践(蚕の飼育も含む)による受入れを行った。実習では蚕の飼育、桑葉の収穫、展示パネル作成、夏の子ども向け企画「かいこ教室」において指導役として普及活動の実践等を行った。実習中に学んだことを来館者に自ら説明することで、絹に関わる産業、歴史、文化への興味関心を深めていただく機会とした。

【実習期間】令和3年7月20日(火)~8月9日(月・祝)(3班に分け実施)

【受入校】東京農業大学(4年)、専修大学(3年)、筑波大学(4年)、 昭和女子大学(4年)、上智大学(4年)、鶴見大学(4年)、 武蔵野美術大学(4年)、成城大学(修士2年)、帝京科学大学(4年) 各1人、計9人

(6) 連携事業

シルキーウィンターフェスティバル

多くの方々にシルク博物館に来ていただき、楽しくシルクへの理解と関心を深めていた

だくことを目的として、クリスマスイベントを実施した。会期中には関東学院大学・企画、横浜市工業技術支援センター・協力による横浜スカーフ展示を開催した。また、シルクミュージアムショップの協力により、シルクフェア(スカーフやネクタイ等のワゴン販売)も実施した。

【会期】令和3年12月11日(土)~令和4年1月16日(日)(開催期間25日間)

【主催】シルク博物館

【協力】関東学院大学/クラシック・ヨコハマ 2021 横浜市民広間演奏会/ 横浜シルクミュージアムショップアソシエイション

【イベント】シルキークリスマス (無料入館日・総入館者数 298人)

プログラム名	実施日	出演者等	観覧者
シルクスカーフを用いたファッションショー の上映(2回開催・当日受付)	12/19(日)	関東学院大学	13 人
クラシック・ヨコハマ 2021 ミュージアムコンサート(事前予約制)	12/19(日)	横浜市民広間演奏会	44 人

【写真】





【入館者数】同時開催の「たのしいかいこの発表会」の入館者数を含む

(単位:人)

		正規料金		割引料金			free years and	-1
区分	一般	シニア 大学生	高校生以下	一般	シニア 大学生	高校生以下	無料※	計
日本人	203	71	10	201	21	2	1,295	1,803
外国人	3	4	0	1	0	0	2	10
計	206	75	10	202	21	2	1,297	1,813

※「無料」:期間中の小・中、招待券、優待券など無料入館者、及び無料入館日である 12 月 19 日(日)の入館者

(7) 資料活用事業

ア 購入

資 料 名	点 数
錦絵「再改横濱風景」	6 枚揃
『横濱開港見聞誌』	全3冊
「横浜手彩絵葉書 海岸通り」	12 枚揃

イ 寄贈 6件 79点

資 料 名	点数	寄 贈 者
着物(福田喜重、由水十久)、帯(北村武資、由水十久)	4 点	魚津公美氏
DVD-R「我が家の養蚕」	1 点	赤井光夫氏
永山登志子刺繍作品(留袖、バッグ、額等)、刺繍額(平野利太郎)	26 点	永山寿一氏
花嫁衣装(昭和初期)	一式	宇佐美祥子氏
着物、木版染制作工程道具類(小山保家、小山哲男)	46 点	小山美弥子氏
シルクリボン他	一式	郷右近 清氏

ウ 貸出 3件

資 料 名	点数	事業名	貸出先	開催期間
衣桁	3 点	第 56 回神奈川県美術展	神奈川県民ホール、 厚木市文化会館	8/25~10/8
蚕種(春嶺×鐘月)	約 450 粒	園内展示室における蚕の 生体展示	神奈川県立 津久井湖城山公園	5/24~7/4
蚕種(錦秋×鐘和)	200 粒	園内の旧養蚕農家におけ る蚕の生体展示	大和市郷土民家園	7/17~8/15

エ 特別利用 8件 16点

資 料 名	点数	特別利用内容/掲載誌等	利 用 者	掲載日等
復元時代風俗衣装人 形写真 平安時代、 桃山時代、江戸時代	6点	授業「美容文化論」教材とし て使用	青柳光子	6/3
錦絵「かいこやしな いの図」(広重)	1点	番組名「英雄たちの選択」に て放映	㈱NHK エンター プライズ	6/23,30
生糸商標「石岡昇益 社」「湘南社」	2 点	BS 朝日番組「百年名家」にて 放映	(株)スクエア・ノ ット	9/5
生糸商標「石岡昇益 社」「湘南社」	2 点	『開花図案』(佐野宏明: 著)に掲載	CCC アートラボ 光 村推古書院編集部	12/25
写真「アナフェ繭と 家蚕繭」	1 点	『カラー写真で見る絹糸昆虫 (仮)』に掲載	小泉勝夫	2022/4 月 頃
生糸商標「有明 社」、「生仁社」	2 点	信州シルク回廊 生糸商標カードに使用	信州シルクロード連携協議会	2022/2/1
博物館1階「ふしぎ ファーム」展示エリ アの撮影	1点	「Panasonic 株式会社主催キッド・ウィットネス・ニュース・コンテスト」に応募のため	森村学園 初等部 榎本昇	
生糸商標「清水製 糸」	1点	教科書『社会科 中学の地 理・歴史・公民』に掲載	(株)帝国書院	2022/4/1

オ 収蔵品の修復

「蚕祖神」、「蚕養守護神 衣襲明神真影」、「蚕神」、「蚕霊尊」の掛軸4点を修復した。 裏打ち修復、洗浄、軸装の新調を実施した。

(8) 刊行物

- ・企画展図録『描かれた養蚕—蚕織錦絵の世界—』A4 40頁 令和3年4月発行
- ·特別展図録『第26回全国染織作品展』A4 32頁 令和3年10月発行
- ・「2021.10-2021.3 催しものご案内」 A3四つ折り 令和3年9月発行
- ・「2022.4-9 催しものご案内」 A3四つ折り変形 令和4年3月発行

(9) 執筆

題 名	掲載先	掲載日	執筆者
連載企画「川崎市市民ミュージアム	川崎市市民ミュージアム	2022年2月	古括曲フ
被災収蔵品レスキューの記録」報告	ホームページ	18 日	高橋典子

(10) レファレンス

蚕を飼育する学校、個人からの問い合わせのほかに報道機関からのシルクに関する問い 合わせなどが多数あった。

分 類	主 な 内 容
	飼育方法(ふ化から繭作りまでの各過程)
	繭の活用方法(糸くり、繭人形、染色、真綿作り)
蚕の飼育に関して	蚕の入手方法
	人工飼料の入手方法
	エサ(桑葉)の確保
	絹の道
蚕糸業に関して	養蚕農家
	幕末の繭購入について

(11) 後援・協力

ア 後援等

後援内容	事 業 名	主催	期間	事業内容
	2021年「横浜フ アッションウィ ーク」	横浜ファッションウィーク 実行委員会	4/29(木・祝) ~5/8(土)の 10 日間	横浜市内のファッション産業の振興、生活文化産業の発展を目指し、横浜の代表的な地場産業である「横浜スカーフ」の振興産業として実施する。
後援名義使用	第6回横浜絹フェスティバル	横浜絹フェスティバル実行委員会	11/14(日)、 19(金)~ 21(日)	「横浜と絹」をテーマに、横浜の 歴史と文化を振返りながら、きも のやスカーフなどを通して絹の素 晴らしさと魅力を紹介する。

イ 他機関への協力

協力内容	事 業 名	主催	期間	備考
広告掲載紙及びチラ シによるクーポン券 の配布	2021 年横浜ファッションウィーク	横浜ファッショ ンウィーク実行 委員会	4/29(木・祝) ~5/8(土)の 10 日間	クーポン券1枚持参 につき、大人2名まで 入館無料
フォトラリーチラシ 持参者を入館無 料とする	ジャックで過ごす楽 しい一日	横浜市中区役所	6/5(土)	入場者:約 200 人
招待券(2名用) 50 枚·全国染織作 品展招待券(1名 用)100 枚の提供	第6回横浜絹フェスティバル	横浜絹フェスティバル実行委員 会	11/14(日)、 19(金)~ 21(日)	一般入場者:2,617 人 リモート: 2,250 人 合計:4,867 人
広告掲載紙及びチラ シによるクーポン券 の配布	かながわシルクフェア 2021	かながわシルク フェア実行委員 会	3/14(月)~ 21(月·祝) 8 日間	クーポン券1枚持参 につき、大人2名ま で入館無料

(12) 職員の派遣

協力内容	事 業 名	主催	期間	備考
川崎市立日本民家園 専門部会へ委員とし て高橋副館長を派遣	川崎市社会教育委員会議日本 民家園専門部会	川崎市立日本民家園	6/19(土)、 12/5(日)、 3/13(日)	
小田原市郷土文化館 協議会委員として高 橋副館長を派遣	小田原市郷土文化館協議会	小田原市教育 委員会小田原 市郷土文化館	11/19(金)、 1/27(木)	
川崎市民アカデミー 講師として高橋副館 長を派遣	「川崎学 漁業、海苔養殖、 製塩をしていたころ」	NPO 法人か わさき市民ア カデミー	10/13(水)	
鑑審査委員(染織) として石鍋学芸課長 を派遣	第62回東日本伝統工芸展鑑審査会	公益社団法人 日本工芸会東 日本支部	2/22(火)	

(13) 広報

当館の特別展や基本情報等について、各種媒体に働きかけた。今年度、掲載された先は 次のとおり。公式ツイッターは4日に1回のペースで更新中。

ア 春の企画展 シルク博物館所蔵品展 描かれた養蚕 -蚕織錦絵の世界-

区分	媒 体 名	名 称
新聞	東京新聞(4月 26日)	よこはま・かながわインフォメーション
テレビ	t v k	ハマナビ
7 2 2	YOUテレビ	MyYOU!
情報紙	サンケイリビング	横浜 TOPICS

機関誌	大日本蚕糸会情報誌	シルクレポート4月号
w e b	タウンニュース社	タウンニュース web 版

イ 秋の特別展 第26回全国染織作品展

区分	媒 体 名	名 称
	読売新聞(10月29日)	Friday かながわ
新聞	神奈川新聞(11月5日)	ミュージアム・ナビ
	東京新聞(11月17日)	地域の情報面
ラジオ	マリンFM(10月 26日)	ハマカフェ GoGo
	横浜市芸術文化振興財団	横浜画廊散歩 10 月号、11 月号
情報紙	タウンニュース社	タウンニュース中区・西区版(10月 28日)
	新聞編集センター	定年時代(11月2日)
業界紙	染織新報社	染織新報(10月26日)
機関誌	日本博物館協会報	博物館研究 11 月号
w e b	NPO 法人アークシップ	ハマフェス

ウ チャレンジ!かいこプログラム 「かいこ教室」「たのしいかいこの発表会」

区分	媒 体 名	名 称
	大日本蚕糸会情報誌	シルクレポート7月号(かいこ教室)
機関誌	大日本蚕糸会情報誌	シルクレポート 10 月号(シルキーWF)
	日本博物館協会報	博物館研究 12 月号(シルキーWF)
新聞	神奈川新聞(12月16日)	週末おすすめ
利 [月]	東京新聞(12月27日)	よこはま・かながわインフォメーション

エ 講座 かいことその仲間の生態・最新の研究について

区分	媒 体 名	名 称
機関誌	大日本蚕糸会情報誌	シルクレポート1月号

オ ワークショップ、実演

区分	媒体名	名 称
機関誌	日本博物館協会報	博物館研究7月号~12月号

カ 常設展、基本情報

区分	媒 体 名	名 称
ラジオ	FMヨコハマ	kiss&ride
テレビ	tvk テレビ	ハマナビ
	NHK E テレ	「あおきいろ」
情報紙	NEXCO 東日本	よこはまナビ VOL30
TH TX/IPA	K&Bパブリッシャーズ	おとな旅プレミアム横浜
情報誌	横浜市	暮らしのガイド

専門誌	シナリオ・センター	「シナリオ教室」10月号
	観光かながわNOW(1月)	館情報
	るるぶKids(7月)	館情報
	和樂w e b(2月)	WARAKUWEB
	いこーよ(通年)	館情報
	縁結び大学(通年)	館情報
	大空出版「JAPAN View」(通年)	館情報
w e b	NAVITIME(通年)	館情報
	インフォメーションテクノロジー関西(通年)	館情報
	横浜市民ギャラリー「ヨコハマ・ギャラ	約4年初
	リー・マップ」(通年)	館情報
	大東建託パートナーズ「DK SELECT	
	進化する暮らし」(通年)	館情報
	IACEトラベル ※米国向け観光サイト	館情報
業界誌	ビジョン企画出版社「美術大鑑」	館情報
	生活の友社「美術界データブック」	館情報
	美術年鑑社「美術年鑑」	館情報

キ その他

区分	媒 体 名(放映・掲載日)	名 称
テレビ	NHK-BSプレミアム(10月20日)	「皇后四代」※再放送
	NHK-BS1(11月7日)	「COOL JAPAN」
	NHK「あさイチ」(1月13日)	「あさイチ」横浜スカーフ展示
		関東学院大学・山崎教授出演
新聞	高知新聞(6月20日)	高橋副館長インタビュー

(14) その他

ア オリジナル商品の開発

オリジナル商品として田島比呂子作友禅訪問着「たづがね」の意匠を用いた「一筆箋」シリーズの第三弾 冬を製作し、販売した。



5 資料

(1) 組織と職員

【組織図】

一般財団法人シルクセンター国際貿易観光会館

専務理事 一 事務局長

| (シルク博物館)

館長(1) — 副館長(1) 学芸課長(1)

主査(1) 学芸員(2)

臨時職員(4) ※()内は人員数

【委嘱者氏名】 名誉館長 マリ クリスティーヌ

【職員氏名】 館長 慶徳 俊哉

 副館長
 高橋
 典子

 学芸課長
 石鍋
 由美子

 主査
 前田
 恵美子

 学芸員
 佐野
 遊海

 学芸員(非常勤職員)
 石渡
 桃子

(2) 事業費 (単位:円)

費目	内 容	支 出
博物館事業費		8,941,434
(内訳)		
普及事業費	常設展示費·特別展開催等	6,527,668
資料整備費	資料補修費•図書資料等収集費等	875,563
広報事業費	広告掲載費•広告資料作成費等	1,017,970
運営管理費	運営委員会開催費·損害保険料	520,233

[※]人件費、事務費および保全保守費等は除外

(**3**) **所蔵資料** (単位:点)

資料名	前年度末の累計	令和3年度		令和3年度末の
東 11 石	収集・寄贈	購入	寄贈	累計
資料	6,851	3	79	6,933
写真・ビデオなど	610	0	0	610
図書	6,627	22	0	6,649
計	14,088	25	79	14,192

(4) 入館者状況

(単位:人)

区分	個 人		割引料金 ※2			無料	幸位・八)	
区 刀	一般	シニア・大	高校生以下	一般	シニア・大	高校生以下	※ 3	合 計
4月	124	29	19	53	21	38	234	518
【 22 目】	(11)	(0)	(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(14)
5月	218 (8)	47 (1)	72 (5)	79 (2)	24 (0)	101 (0)	582 (0)	1,123 (16)
【26日】								
6月 【23日】	197 (3)	27 (2)	105 (1)	103 (0)	13 (0)	610 (1)	384 (0)	1,439 (7)
7月	296	37	156	230	18	356	306	1,399
【 27 目】	(4)	(0)	(0)	(1)	(0)	(2)	(0)	(7)
8月	175	20	103	228	13	227	279	1,045
【 25 目】	(2)	(0)	(0)	(0	(0)	(0)	(0)	(2)
9月	149	30	25	57	11	25	236	533
【 23 目】	(5)	(0)	(1)	(2)	(0)	(0)	(0)	(8)
10月	162 (5)	77 (0)	36 (0)	78 (2)	29 (0)	267 (1)	382 (1)	1,031 (9)
【23日】								
11月 【24日】	394 (9)	258 (0)	217 (2)	183 (0)	155 (0)	1,043 (0)	918 (0)	3,168 (11)
12月	135	53	27	181	14	464	1,050	1,924
【18月】	(2)	(4)	(0)	(1)	(0)	(0)	(2)	(9)
1月	175	58	146	51	18	227	541	1,216
【 23 目】	(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3)
2月	201	39	80	24	14	18	215	591
【23 目】	(2)	(0)	(0)	(2)	(0)	(3)	(0)	(7)
3月	200	55 (2)	364 (0)	91	14	398	406	1528
【27 日】	(5)			(0)	(0)	(3)	(0)	(7)
計 【 238 日】	2,426 (59)	730 (9)	1,350 (12)	1,358 (10)	344 (0)	3,774 (7)	5,533 (3)	15,515 (100)

※ 【 】: 開館日数、(): 外国人の人数を内書き

※2 「割引料金」:各種割引による入館者

※3 「無料」: 招待券、優待券等による無料入館者

(5) 過去の特別展・企画展一覧

左 垚	kt 미 묘 또
年度	特別展等
1959(昭和 34)	シルクセンター竣工記念全国輸出振興展
	特別展『蚕織錦絵展』
1960(昭和 35)	特別展『近世日本衣装名品展』
1961(昭和 36)	特別展『近代染織名作展』
1962(昭和 37)	特別展『日本伝統染織工芸展』
1964(昭和 39)	特別展『オリンピック東京大会記念シルクフェアー』
1965(昭和 40)	特別展『能装束展』
1966(昭和 41)	「第8回米国貿易見本市出品絹製品展示会」
	特別展『伝統染織作品と紅染資料展』
1967(昭和 42)	特別展『紋と繍の美展』
1968(昭和 43)	特別展 開館 10 周年記念『シルク博物館所蔵品展』
1969(昭和 44)	特別展『江戸時代能装束展』
1970(昭和 45)	特別展『花のきものと髪かざり展』
	特別展『第1回シルク博物館染織作品展』
1971(昭和 46)	特別展『第2回シルク博物館染織作品展』
1972(昭和 47)	特別展『第3回シルク博物館染織作品展』
1973(昭和 48)	特別展『第4回シルク博物館染織作品展』
1974(昭和 49)	特別展『第5回シルク博物館染織作品展』
1976(昭和 51)	特別展『ヨコハマのスカーフ展』
1977(昭和 52)	特別展『世界の民族衣装展』
1978(昭和 53)	特別展『人間国宝による「絹の伝統染織名作展」』
1979(昭和 54)	特別展『横浜絹の祭典と染織新作展』
1980(昭和 55)	特別展『思い出のきもの展』
1981(昭和 56)	特別展『草木染展と染織新作展』
1982(昭和 57)	特別展『洋装のあゆみとニューファッション展』
1983(昭和 58)	特別展『ふるさとの絹展と第8回染織作品展』
	企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』
1984(昭和 59)	特別展『花嫁衣装展』
	特別展『江戸期から現代までの「江戸小紋展」』
	企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『郷土かながわの染織作品展』
1985(昭和 60)	特別展『日本人形の細工物展』
	企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『フランス絹織物栄光とその先達「リヨン織物美術館秘蔵品展」』
1986(昭和 61)	特別展『ヨコハマのスカーフ展』
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『関東の絹展と第9回染織作品展』
1987(昭和 62)	特別展『レースの美展』
1007(4414 02)	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ファッションデザイナーによる'87 ニューウェーブきもの展』
1988(昭和 63)	特別展『ふろしきの今昔展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	中別展『88 ニューシルク展と第 10 回染織作品展』
1989(平成元)	特別展『シルク博物館所蔵名品展』
1000(77/200/	行が成『クルク時初時が成石中版』 企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	正画版『祝と子の「かいこの日然科子教室」』 特別展『華麗なる絹の世界へ「絹の文化展」~江戸と現代~』
1990(平成 2)	特別展『「日本の紬展」〜紬のふる里を訪ねて〜』
1990(十八人2)	14711122 日本211122 141212 141212 141212 141212 141212 141212 141212 141212 141212

1990(平成 2)	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクまつり'90 と第 11 回染織作品展』
1991(平成 3)	特別展『館蔵「蚕織錦絵展」〜錦絵にみる時代風俗と衣装〜』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『~桂由美コレクション~「世界の民族花嫁衣装展」』
1992(平成 4)	特別展『館蔵「染織名品展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェア'92 と第 12 回染織作品展』
1993(平成 5)	特別展『館蔵「江戸小袖展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『「絹と化粧まわし展」~戦後横綱の化粧まわしによる~』
1994(平成 6)	特別展『館蔵「江戸古裂展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェスタ'94 と第 13 回染織作品展』
1995(平成 7)	特別展『~繍の美~「甦る足柄刺繍展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『「思い出のきもの展」ーPARTⅡ- ~昭和・平成の衣裳作品から~』
1996(平成 8)	特別展『~日本人の贈りもの~「掛袱紗展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェア'96 と第 14 回染織作品展』
1997(平成 9)	特別展『アヅマカブキの舞踊衣装展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『~手織りの芸術美~「ラオスの伝統織物展」』
1998(平成 10)	特別展『カイコの道具展とシルクフェア'98』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 15 回染織作品展と秋のシルクフェア』
1999(平成 11)	特別展『文化の伝承一江戸から現代へ「華麗なる能装束の美」展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『染めの美織りの美 ~人間国宝作家作品を中心として~』
2000(平成 12)	特別展『沖縄の伝統染織展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 16 回全国染織作品展』
2001(平成 13)	特別展『人生をかけた荒井照太郎の手描友禅その美』
	企画展『「熊田千佳穂の昆虫記録展」と親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ブータンの民族衣装とシルクフェア』
2002(平成 14)	特別展『中村光哉友禅染色の詩展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 17 回全国染織作品展とシルクフェア』
2003(平成 15)	特別展『糸目友禅の巧み「人間国宝山田貢展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『市田ひろみコレクション「世界の民族衣装展」』
2004(平成 16)	特別展『自然をいつくしむ手描友禅「人間国宝 田島比呂子展」』
	企画展『親と子の「歌舞伎人形とかいこの自然科学教室」』
0005/35-15 (5)	│ 特別展『第 18 回全国染織作品展』 │ 対 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
2005(平成 17)	特別展『世界のふろしき展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
0000/35-10	特別展『今に伝えるつむぎの魅力』
2006(平成 18)	特別展『「人間国宝 細見華岳展」ー綴織に心を込めてー』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』

2006(平成 18)	特別展『第 19 回全国染織作品展』
2007(平成 19)	特別展『インド サリーの世界』
2007(17,5010)	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『旧山辺知行コレクション「インドの染織展」』
2008(平成 20)	特別展『アロハ・デザイン展』
2000(1/9020)	特別展『ラオス女性が伝える手織りの世界』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 20 回全国染織作品展』
2009(平成 21)	特別展『佐賀錦のみやびな世界「人間国宝 古賀フミ展」』
	特別展『開館 50 周年記念「ヨコハマ開港とシルク展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『鈴木一コレクション「古渡り更紗と名物裂展」』
2010(平成 22)	特別展『ペルシャシルク絨毯の世界』
	特別展『華麗なる能装束「稔りの季」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 21 回全国染織作品展』
2011(平成 23)	特別展『「三浦景生展」ーヨコハマ染陶暦程ー』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『一平山郁夫シルクロード美術館コレクションー』
	『豊饒なる色彩―ウズベキスタンの布と器』
2012(平成 24)	特別展『「美しい日本の絹」ユミ カツラブライダルコレクション』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
2013(平成 25)	特別展『群馬県立日本絹の里との提携記念』
	『夢を紡いだシルクー「蚕の国」群馬と「シルクの街」ヨコハマー』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『一美しい日本の絹ー「友禅」』
2014(平成 26)	企画展『世界に羽ばたいたスカーフたち』
	企画『親と子のかいこの自然科学教室』
	特別展『第 23 回全国染織作品展』
2015(平成 27)	企画『親と子のかいこの自然科学教室』
	特別展『今に生きる 江戸小紋 ~小宮家四代の作品を中心に~』
2016(平成 28)	企画展『キモノの美一人間国宝田島比呂子の友禅一』
	特別展『第 24 回全国染織作品展』
2017(平成 29)	企画展『ふくらむ はずむ まじわる シルクの輝きを知る~織りの美~』
2010(75-15-00)	特別展『横浜・生糸ものがたり I "かいこ"と暮らすーかながわ養蚕録ー』
2018(平成 30)	企画展『江戸の粋とデザイン―小袖コレクションから』
0010 (W ch 01	特別展『第 25 回全国染織作品展』 本画展
2019(平成 31· 令和元)	企画展 開館 60 周年記念所蔵名品展
〒111 11 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (『シルクのシンフォニー ~染と刺繍のかがやき~』 特別展 開館 60 周年記念 横浜・生糸ものがたりⅡ
2020(令和 2)	『白き糸の調べ―かながわの製糸・撚糸―』 新型コロナウィルス感染症拡大防止のため中止
2020(7)作(2)	新空コロデリイルス感染症拡入防止のため中止 企画展『描かれた養蚕 —蚕織錦絵の世界—』
2021(令和 3)	
	特別展『第 26 回全国染織作品展』

シルク博物館令和3年度年報

令和 4 年6月1日 編集・発行 シルク博物館

〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町 1 番地 TeL045-641-0841